

# やすらぎ

埼玉県精神保健福祉協会ニュース

<第59号>

平成27年9月

公益社団法人 埼玉県精神保健福祉協会  
会長 山内 俊雄

<事務局>

埼玉県立精神保健福祉センター内

TEL/FAX 048-723-5331

<http://homepage3.nifty.com/kokoro-saitama/>

## 設立50周年記念式典・祝賀会を開催しました

平成27年6月7日（日）に浦和ワシントンホテルにおいて、設立50周年記念式典が盛大に行われました。

当協会は昭和40年5月26日に当時の栗原浩埼玉県知事が初代会長となり、社団法人埼玉県精神衛生協会として発足いたしました。平成25年4月には公益社団法人に移行し、本年設立50周年を迎えることができました。この大きな節目に関係者の方々と共に記念式典・祝賀会を開催することができ、感謝しております。

開会にあたり当協会山内会長から、これまでの協会の歩みや今後の果たすべき役割等が述べられ、次に、ご来賓からの祝辞として、埼玉県知事（樋口勝啓福祉部副部長代読）、一般社団法人埼玉県精神科病院協会会長 菅野隆先生、一般社団法人埼玉精神神経科診療所協会会長 鈴木仁史先生から、当協会および本県の精神保健福祉の向上を祈念する温かいお言葉を頂戴いたしました。

その後の設立50周年記念表彰では、本県の精神科医療、保健、福祉を支えるとともに、当協会の発展に各分野で寄与されてきた、個人、団体、企業に、「特別功労賞」「功労賞」「支援感謝賞」を贈呈いたしました。

### 表彰者一覧（敬称略）

《特別功労賞》 五十嵐良雄 恵智彦 大平英範 菊池礼子  
佐藤三四郎 中島顕 守屋裕文 梁瀬秀夫

《功労賞》 天野宗和 飯塚壽美 上野容子 魚谷かおり 大野夏美  
加藤静子 兼古幸子 児玉照彰 東海林寛子 白石直己  
瀬田節子 宗野政美 田村のぞみ 中村一也 濱田茂久  
星丘匡史 本多紀恵子 松原聡子 山田まさ子

### 《支援感謝賞》

一般社団法人埼玉県精神科病院協会

一般社団法人埼玉精神神経科診療所協会

一般社団法人日本精神科看護協会埼玉県支部

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

埼玉県グラウンド・ゴルフ協会

埼玉県バレーボール協会

さいたま市ソフトボール協会

アステラス製薬株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

日本イーライリリー株式会社

持田製薬株式会社

上尾市バレーボール連盟

行田市卓球連盟

さいたま市グラウンド・ゴルフ協会

吉富薬品株式会社

大塚製薬株式会社

大日本住友製薬株式会社

Meiji Seika ファルマ株式会社

ヤンセンファーマ株式会社



山内会長あいさつ



特別功労賞受賞者の皆様

## 設立 50 周年記念講演

# 世に棲むから地域で共に生きるまで 精神科リハビリテーション五十年の変遷 ～いま精神保健福祉協会に期待すること～

一宮 祐子 先生 医療法人(社団)川越同仁会川越同仁会病院 名誉院長

\*敗戦からの60～70年を振り返る。

日本では、歴史上精神障害者に対する組織的迫害はありませんでした。同時に障害者に対する公的対策も殆ど取られて来ませんでした。

戦後、昭和25年に精神衛生法が施行され、昭和30年にクロルプロマジンが薬価基準に入り薬物療法時代が始まります。昭和39年にライシャワー事件が起き、翌年精神衛生法が改定され、埼玉県精神衛生協会が設立、全国精神障害者家族会連合会が結成されました。昭和25年に埼玉県下の精神科病院は4病院だけでしたが、35年には23病院に増え、その80%が民間病院でした。それと同時に統合失調症モデルの生活療法が始まりました。各地に様々な治療的実践活動が起こり、入院患者とスタッフが夏山のテント暮らしを共にしたり、海辺にセメントで大きな巻貝の砦を作って遊ぶなど、実験的試みもありました。

歴史的に忘れてはならないのが1960～70年代です。日本はどんどん病床を増やしていき、同時期アメリカでは病床を減らしていきました。昭和40年から60年の20年間は医療現場が大変揺れた時代です。1968年春にクラーク勧告が出され、それに重なり反精神医学運動が始まりました。烏山病院問題がでて、朝日新聞で「ルポ精神病棟」の連載が始まったのが1970年代で、生活臨床と院内業務使役に対する批判が巻き起こってきました。昭和49年にデイケア・作業療法が点数化し、院内業務の使役は減ってきたものの、宇都宮病院事件が起き、精神科の医療現場は揺れに揺れました。

1985年からの20年間、昭和60年以降になるとデイ・ナイトケア、通所作業施設、グループホーム等が国の主導で整備され、平成5年に障害者基本法が制定されました。精神障害者が身体障害者と同じ権利を保障された記念すべき法改正です。平成7年に精神保健福祉法ができ、リハビリテーション、ノーマライゼーションの理念のもと、国の方策は自立と社会参加に向け大きく舵を切りました。

平成7年から現在までの20年、事情は変わり、入院患者の高齢化、統合失調症モデル医療の転換、機能別病床の再編成、リハビリテーションと福祉サービスの地域移行などが進められてきました。



### \*川越同仁会病院での取り組みの変遷

開放化に着手したのは昭和32年からでした。壁に面して終日動かぬ人たちを見て仰天したのがきっかけです。もっと生き生きした時間と暮らしのリズムを取り戻さなくてはと、思い付くことを片っ端からやりました。まず住環境の整備、個別的で多様な治療活動を目指すうち自然に生活療法、社会復帰療法に向かっていったと思います。この時スタッフの間に燃え上がる様な同志的結合が生まれました。開放化を始めて5年後、昭和37年に外勤療法、昭和40年に職親制度、外勤先に就職退院することも始めました。この頃、社会復帰の大義名分のもと療養者を一本のレールに押し上げているのではという疑問と反省が生まれました。「そうだ、学校を作ろう」当時は学業中断の中・高・大学生がたくさん居たこともあり、本職の教師を招いて院内に教室を作り、社会・国語・英語・簿記・珠算など10科目の補習をしました。入院者の自主活動も活発で、スタッフお断りの「土曜会」という集まりや、コーヒーショップを運営していました。昭和47年にプールが出来ました。当時は必要なものは作るという院内完結を目指していました。それではいけないのですが。働きかけの中で忘れぬ臨床衝撃もありました。病棟に流れるBGMを聴いて一挙寛解した女性、物との対面から生きた現実との接触を取り戻した男性の事例です。

いろいろやってきて、リハビリテーションや社会参加のサポートシステムはとにかく利用しやすいもの、制度上の体系図に基づく画一的で固い組織ではなく、多様なサービスメニューを持つ柔らかな組織が望ましいと思います。

ユーザーがあちこち行かなくても、其処に行けばトータルに間に合ってしまうサービスが期待されるし、必要です。機能の分化も統合も常にユーザーの立場から見直していく必要があると思います。

協会のメンバーや理事のお名前を見てびっくりしたのは、精神科医療に携わる方がたから看護協会、薬剤師部会、栄養士部会、民間で様々な援助のシステムを立ち上げている方たち全てが集まっておられることです。これだけの人と組織が集まっているのですから、協会はもっともっと仕事ができるだろうなど。

一番大事なのはヒューマンネットワーク構築と資源の最大限活用と思います。また、精神衛生思想の普及活動と言っても普及の段階はとっくに過ぎていて、今は別の段階かなと。外来には自分で診断を付け薬まで指示してくる方がみえます。これは一種の啓蒙が行き過ぎた状態に思えます。もう少しネットワークを強く構築するようなことに動いていただくと有難いと思います。民生委員さんなど個別に動いているいろいろな資源をもっと有効に結びつける、そういう働きを協会にしていただければありがたいです。

※一宮先生の御講演内容の全文につきましては、発行を予定しております『50周年記念誌』に掲載いたします。

一宮先生は、戦後から現在に至るまでの精神科リハビリテーションの大きな流れと、その中で先生ご自身が大変熱い情熱をもって取り組まれてきた活動についてお話をいただき、大変貴重な講演となりました。また、変遷していく時代の中で当協会への期待も込められ、今後の協会活動の力となりました。

## 報告1

### 新たな収益事業の取り組みについて

～埼玉県立精神医療センター内に清涼飲料水自動販売機を設置させていただくことになりました～

近年の公益法人改革のKey Wordは「Disclosure：情報公開」と「Accountability：説明責任」であり、公益社団法人には財政面及び運営面における自立が求められています。当協会におきましても、公益社団法人に移行するにあたって、収益事業として「一般県民等への講師派遣事業」を登録していたものの、現在まで実績をあげることは出来ずにおりました。

このような状況の中、昨年度、当協会事務局を置かせていただいております埼玉県立精神医療センターから、同センター敷地内に清涼飲料水自動販売機を設置するスペースを3台分お貸しいただけるとのお話をいただきました。これにより、清涼飲料水自動販売機を設置した会社から販売手数料をいただけることになりました。

収益事業を開始することにより固定資産使用料、法人税、税務費用が新たに発生いたしますが、これらを差し引いても収益が見込まれることから、本年3月18日に開催されました平成26年度第3回理事会において収益事業内容の追加について承認を受け、本年6月7日に開催されました定時総会で当該収益事業の開始を含む平成27年度事業計画（案）が承認されましたので、当法人の監督官庁であります埼玉県福祉部障害者福祉推進課長あてに「自動販売機設置事業」の変更認定申請をいたしました。

当該収益事業によって得られた収益につきましては、当協会が実施する公益事業に用いることとなります。今年度につきましては新規事業である「ココロのあおぞら音楽祭」の費用に充てさせていただく予定です。

埼玉県立精神医療センターのご厚意に対し、厚く御礼申し上げます。



## 報告2

### ～平成27年度定時総会報告～

平成27年6月7日(日)、浦和ワシントンホテルにおいて平成27年度定時総会を開催いたしました。議案につきましては、全て原案のとおり承認されました。

総会終了後、平成27年度公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会会長表彰式を行いました。協会長表彰は、精神保健福祉の向上に献身的な努力をなされ、また個人については県内で20年以上、団体については10年以上の活動年数がある方が対象です。関係機関や団体からの推薦により、理事会の審議を経て決定されました。表彰者は次のとおりです。

## 【個人】17名

## ＜医療機関職員等永年勤続表彰＞

氏名	所属	氏名	所属
佐藤 珠江	社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター	厚川 洋子	医療法人白翔会 浦和神経サナトリウム
加藤 教子	医療法人昭友会 埼玉森林病院	吉野 勝一	一般社団法人日本精神科看護協会 埼玉県支部
滝口 智雄	一般社団法人日本精神科看護協会 埼玉県支部	山城紀代美	社会福祉法人 毛呂病院
水口 京子	医療法人社団松風会 松風荘病院	高橋 愛子	医療法人社団松風会 松風荘病院
田中 幸代	医療法人社団松風会 松風荘病院	相川 由紀	医療法人秀峰会 北辰病院
青木 勇人	医療法人秀峰会 社会復帰部門		

## ＜地域精神保健福祉推進者功労表彰＞

氏名	所属	氏名	所属
高橋 良枝	公益社団法人埼玉県断酒新生会	村上ミドリ	公益社団法人埼玉県断酒新生会
大場 敏明	医療法人財団 アカシア会	田中 正彦	特定非営利活動法人 あおーら
田尻 守	埼玉県精神障害者家族会	中村 正春	公益社団法人日本てんかん協会 埼玉県支部

## 【団体】2団体

## ＜地域精神保健福祉推進団体功労表彰＞

団体名	代表者	所在地
特定非営利活動法人 ラベンダー	松本三千子	ふじみ野市
新座やすらぎの会	一之瀬昌明	新座市

## 報告3

## ～一般寄付金の受領について～

平成27年3月20日に一般社団法人埼玉県精神科病院協会様から、5万円の一般寄付金をいただきましたので、ご報告いたします。

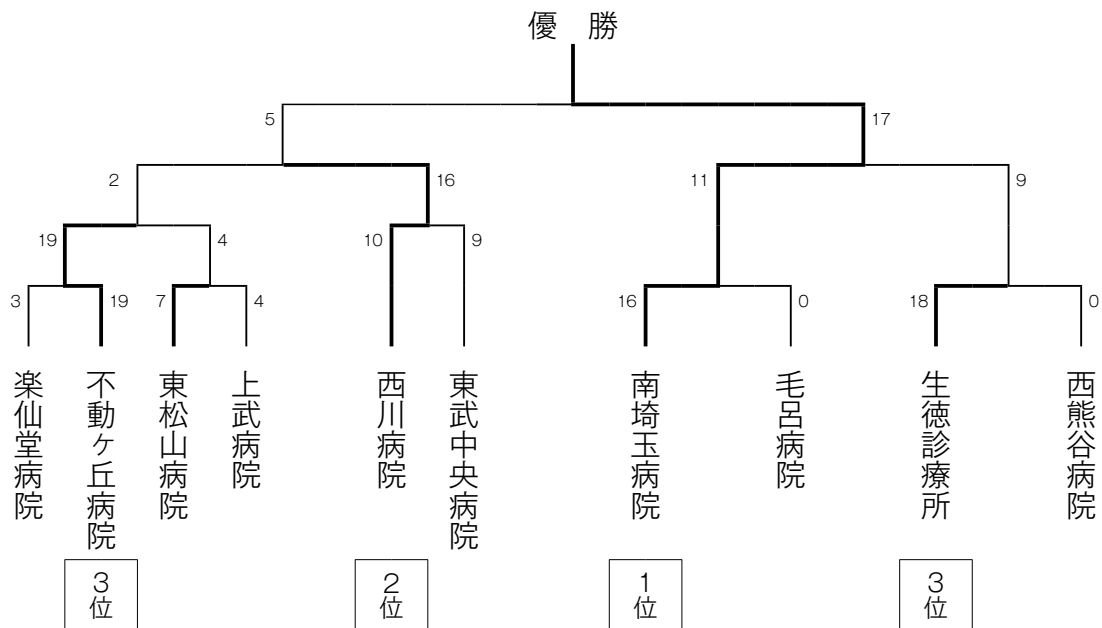
報告4

～第43回埼玉県精神保健福祉ソフトボール大会～

5月29日(金)、荒川総合運動公園(さいたま市)にて「第43回埼玉県精神保健福祉ソフトボール大会」を開催いたしました。今大会には10チームが参加しました。

昨年度優勝した東武中央病院が初戦で敗れ、決勝は、南埼玉病院と初の決勝戦に挑んだ西川病院が戦い、南埼玉病院が17対5で優勝しました。また、親善試合リーグでは昨年の本戦決勝対戦チームである、東武中央病院と西熊谷病院が決勝戦を行い、東武中央病院が11対0で優勝しました。

時折、雨の降る肌寒い中での試合でしたが、どのチームもそれにひるむことなく迫熱した試合が行われました。



優勝チーム：南埼玉病院へのインタビュー



今年は、去年の”無念の3位”の雪辱を晴らすべく、『優勝奪還』を大泉監督と約束し大会に臨みました。

試合が始まるや否や、今年の打線はとにかく次の打者へつなぐ『意識』『モチベーション』の高さを見せつけるかのように、とにかく打ちまくった。

3試合とも2桁得点し、見事優勝を奪還することが出来ました。ベンチの選手も常に声を出し、チーム一丸となり、相手に隙入る間を与えず、最高の結果を残すことができました。

毎週1回の練習を大事に、目的意識の高さを共有し、仲間と切磋琢磨してきました。これこそ今年の南埼玉病院の強さの要因だと思いました。

来年はディフェンディングチャンピオンとしての戦いですが、未だ成し遂げていない『連覇』を目指し、努力を怠らず頑張っていきたいと思います。

最後に応援をしてくれた病院のスタッフやメンバーの方々に感謝したいと思います。ありがとうございました！！

(主将 宮下 彰史)

### 「親善試合トーナメント」優勝チーム：東部中央病院へのインタビュー



本戦では残念な結果になってしまいましたが、気持ちを切り替えて親善試合を戦うことができました。対戦相手はどこも素晴らしいチームで気が抜けない試合ばかりでしたが、メンバーの頑張りやスタッフの支えでチーム一丸となり優勝することが出来ました。

来年は、本戦でも結果が出せるようチャレンジャーの気持ちで臨みたいと思います。  
(キャプテン H・S)

## お知らせ

### <平成27年度こころの健康プロジェクトの助成団体決定について>

こころの健康プロジェクトは、埼玉県内において行われる精神保健福祉分野に関する普及啓発及び社会貢献活動の促進を目的とする、先進的精神保健福祉事業立ち上げ支援制度です。事業財務委員会及び臨時理事会において、厳正なる審査を行った結果、以下の団体に助成することが決定いたしました。

#### 《平成27年度こころの健康プロジェクト助成団体》

団体名	事業名	助成金額(円)
フットサル IN 埼玉実行委員会 (埼玉カンピオーネ)	埼玉県内における精神障害者 フットサル大会の開催	150,000
埼玉県障害者バレーボール協会 精神障害部門	精神障害者バレーボール普及事業	90,000
一般社団法人 日本精神科看護協会埼玉県支部	こころの出前講座	100,000
埼玉県北部地域スポーツ交流活動の会	埼玉県内北部地域精神障がい者 フットサル交流会	50,000

### <彩の国ふれあいピック秋季大会>

日時：平成27年9月27日(日) 午前9時30分～午後3時

会場：熊谷スポーツ文化公園(熊谷市上川上300)

内容：様々な種目の障害者スポーツ競技が行われます。当協会は、グラウンド・ゴルフの運営を行います。グラウンド・ゴルフは自由参加種目ですので事前申込み不要ですので会場(補助競技場)までお越し下さい。



### <第43回埼玉県精神保健福祉卓球大会>

日時：平成27年10月9日(金) 午前9時～午後4時

会場：行田グリーンアリーナ(行田市大字和田1242)

内容：卓球大会(団体申込) ※申し込みは終了しました。

### <第9回こころの青空グラウンド・ゴルフ大会>

日時：平成27年10月23日（金） 午後1時30分～午後4時  
 会場：埼玉県障害者交流センター（さいたま市浦和区大原3-10-1）  
 内容：グラウンド・ゴルフ大会（個人申込）  
 ※詳細につきましては別途ご案内します。

### <平成27年度こころの健康講座>

日時：平成27年10月31日（土） 午後1時30分～午後4時15分  
 会場：北本市文化センター（北本市本町1-2-1）  
 内容：「こころと眠りのふかーい関係～ストレス社会を生き抜くための快眠術とこころのケア～」  
 講師：早稲田大学人間科学学術院（助教）・睡眠総合ケアクリニック代々木（臨床心理士）

岡島 <sup>いさ</sup>義氏

共催：北本市、埼玉県メンタルヘルスセンター  
 後援：埼玉県鴻巣保健所  
 お申込み方法：北本市健康づくり課へ、お電話でお申込みください。  
 （締切：平成27年10月23日）

電話：048-594-5544

※詳細につきましては別途ご案内します。



### <第1回ココロのあおぞら音楽祭> ☆新規事業☆

日時：平成27年11月27日（金） 午後0時30分～午後4時  
 会場：さいたま市北区プラザノース（さいたま市北区宮原町1-852-1）  
 内容：音楽祭（団体申込）  
 ※出演申し込みは締め切りました。鑑賞案内は別途ご案内します。



### <SAITAMA 心の健康フェスティバル IN 越谷>

日時：平成27年12月13日（日） 午後1時30分～午後4時  
 会場：越谷市中央市民会館（越谷市越ヶ谷4-1-1）  
 内容：「子どものスマホ依存への対応」  
 講師：独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 精神科医 中山秀紀 氏  
 ※詳細につきましては別途ご案内します。

#### △△ 編集後記 △△

無事に設立50周年記念式典が開催でき、ホッとしております。皆さま方の御協力あつての協会です。今後も様々な活動や連携をとっていくことで精神保健福祉の向上に努めてまいりますので、御意見等ございましたら、お寄せください。今年度は『設立50周年記念誌』を発行する予定です。お楽しみに！そのため、「やすらぎ」の発行は今年度は2回になります。 （蟹澤）